

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。</p> <p><指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習を、全体指導で設定しにくく、また個別指導が十分に確保できない。</p>	<p>⇒</p> <p>ドリルパークやスタディサブリを活用 テスト前学習会や質問会の実施 授業時間内での復習の時間や演習の時間の設定 定期テストでの習熟度の確認</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 「思考判断表現」の記述式問題の正答率が二極化し、要点を押さえての回答に課題がある。</p> <p><指導上の課題> 知識・技能に二極化がみられるため、授業時間内での個別指導が十分に確保できない。</p>	<p>⇒</p> <p>各授業でオクリンク等を活用した、自他の意見を発信・共有する「学び合い」の実施 授業終了での「自己の振り返り」の時間の実施 プレゼン力向上(声の抑揚や話すスピード、間の取り方など)基本スキルの習得</p>

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>「教科に関する調査」の問題別調査結果において、数学では知識・技能の正答率に二極化がみられた。また、休日3時間以上勉強する生徒の割合は、全国・県よりも高い一方で、休日全く勉強をしない割合が全国や県に比べ高く、家庭学習時間においても二極化がみられた。このため、家庭学習の定着も本校の課題の一つであると考えている。</p>
思考・判断・表現	<p>「教科に関する調査」の領域等別平均正答率において、「A 話すこと・聞くこと」の項目で、本校の数値がほかの内容と比べて全国(公立)との差が小さかった。日頃より、授業においてプレゼン力の向上を目指し、「対話的な学び」に取り組んでいる成果の一つとらえている。</p>

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>各授業で、ドリルパークやスタディサブリを活用することができた。毎回の授業内で行うことはできなかったが、設定した時間で内容の復習をすることができた。授業時間内での復習・演習の時間を設定することができた。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>各授業終了での「自己の振り返り」の時間の実施をすることで、本時の内容の再確認ができ、次授業の導入もスムーズに行うことができるようになった。</p> <p>「対話的な学び」に力を入れた授業を行うことで、プレゼン力の基本スキルの習得につながっていると考えている。</p> <p>一方で、各授業でオクリンク等を活用した授業は、教科によって、実施に差がみられるため、職員研修等を実施していく。</p>	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している状況は変わらず見られる。この要因の1つとして、生活習慣等に関する調査結果「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の項目において、学年によって差はあるものの、市との差が顕著に見られる。学習習慣の定着が知識・技能の定着に繋がっていくのではないかと捉えている。</p>
思考・判断・表現	<p>「対話的な学び」の形態の授業に力を入れていることにより、国語の「話すこと・聞くこと」の結果が高くなったと考えられる。一方で、国語の「書くこと」「読むこと」や、数学の「図形」や「データの活用」などの領域で課題が見られる。</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	<p>中間期に引き続き、継続して授業改善策を実施して授業を行うことができた。ドリルパークやスタディサブリの活用により、内容の復習を行うことができた。</p>
思考・判断・表現	B	<p>中間期に引き続き、「自己の振り返り」の時間の実施を各教科の授業で行うことができた。「対話的な学び」に力を入れた授業も継続して行うことで、プレゼンテーション能力の向上につながったと捉えている。各授業でのオクリンク等の活用を継続的にやっていく。</p>

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得状況の更なる改善のために、ドリルパークやスタディサブリなどを活用する機会を増やしていく。</p>
思考・判断・表現	<p>オクリンク等のソフトの活用を継続して行っていく。また、自他の意見を発信・共有する授業の際に最適な形態を模索していく。さらに、生徒自身の振り返りの時間を引き続き行い、前時の授業との連続性を持たせていく。</p>

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)